騎士屋

土田耕平

青空文庫

私(わたし)どもが小学四年生のときの受持は、牛島(うしじま)先生でありました。牛島先生は、色が黒くて目がギロリとして、いかにも怖さうな顔つきでしたが、笑ふと、まるで別の人のやうにやさしい顔になりました。

先生は、その年の春中学を卒業したばかりで、まだ大さう若い人でした。やがて南米へ行くのだと云(い)つて、英語の勉強をしてをられました。休み時間には一人教室へ残つて、厚い辞書と首引をしてゐる姿をよく見ました。

「先生、外へ出て一所にあそばうぜ。」

私ども二三人して、教室の窓をのぞきに行きますと、先生は額ごしに大きな目を光らせて、

「うるさいぞ、黙つてをれ。」

けれども、その目は忽(たちま)ち象のやうに細く、親しい笑顔に変つてをりました。

体操の時間には、私どもはみな先生に連れられて、よく村はづれの原つぱへ遊びに行くことがありました。先生は、庇(ひさし)の破れかゝつた学生帽をかぶり、短い袴(はかま)に薩摩下駄(さつまげた)といふいでたちで、先頭に立つてサツサと歩いて行かれます。私どもはなかば駈足(かけあし)で、その後へついて行かねばなりませんでした。それは丁度ロシヤと戦争のあつたころで、

赤い夕日に照されて……

といふ満洲(まんしう)戦場の唱歌が流行(はや)つてゐて、私どもは、外を歩くときは必ずあの唱歌をうたひまし

た。あれをうたふと、勇ましいやうな悲しいやうな、不思議な気持になりました。

「野郎ども、もつと大きな声を出せ。」

先生は時々うしろをふり返つてどなりました。

村のはづれには、その頃鉄道線路が新しく敷かれたばかりでした。踏切のところに、まだペンキのにほひのする立札に、「きしやにちゆういすべし」と筆太に書かれてあります。私どもは物珍らしさにその仮名文字を一字々々声に出して読みあげました。

き、し、や、に、ち、ゆ、う、い、す、べ、し。

「おめえたち、きしやつて何のことか知つてゐるか。」

と先生が突然云ひました。私どもはさつそく返事が出来ずにゐますと「誰にも分るめえ。おれが教へてやる。きしやといふのは汽車のことではねえ。むかし騎士屋と云つてとても強い人があつたのだ。この人に出逢つたら、汽車だつて、何だつて叶はねえ。ううんと一息にはねとばされてしまふ。それで騎士屋に注意すべしさ。汽車の方で恐かつたのだな。それがどうだ。今の野郎どもはみんな弱くなつてしまつて、汽車に注意すべし、同じきしやでもえれえ違ひになつたものだ……」

私どもはワアーと声をあげました。先生の話しぶりがいかにも愉快だつたからです。先生は大きな目を剥いて見せて、またサツサと歩き出しました。私どもは駈足で後へつゞいて行きました。そのとき先生の丈高い姿が、ほんたうの騎士屋のやうにたのもしく思はれました。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第九巻」ほるぷ出版
　　1977（昭和52）年11月20日初刷発行
底本の親本：「原つぱ」古今書院
　　1928（昭和3）年4月
初出：「原つぱ」古今書院
　　1928（昭和3）年4月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2013年5月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

騎士屋

土田耕平

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/